

「語りとオルガン演奏の会」

2012年11月18日(日) 13:30

● 大森聖アグネス教会 礼拝堂 ●
語り 秦 温子 演奏 塩田 告

第1幕 ◇語りとオルガン◇

『花さき山』… 斉藤隆介作

「たった十のおなごわらし」の「あや」は、山菜をとりに行った山奥で「山んば」に出会う。山いちめん咲く美しい花のわけを「山んば」は教えてくれる。やさしいことをすると花が咲く。あやの足元の赤い花は、あやがきのう咲かせた花だった。

第3幕 ◇語りとオルガン◇

『南ヶ原団地A号棟』… 江國香織作

南ヶ原団地に住んでいる四年生の同級生三人。それぞれの友達の家庭を羨むちょっと愉快的な作文です。(ドキュメントではありません。念のため…)

使用曲

「Take Me Home, Country Roads」 John Denver

「She's a Rainbow」 Rolling Stones

「多摩蘭坂」 RC サクセッション

第2幕 ◇オルガンを中心に演奏のみ◇

『スノーグース(白雁)』… Camel 原曲

「自然の美しさ」「動物との心の触れ合い」「戦争への疑問提起」など…が盛り込まれた、アメリカの小説家ポール・ギャリコの同名の短編小説を、イギリスの“Camel”というロックバンドが1975年に小説の世界感を音楽で表現。全編演奏すると40分以上になる大作の一部を取り上げる。

物語は…

第二次世界大戦さなかのイギリスの大沼沢地帯“グレート・マーシュ”という霧がけむる沼地。やがて霧がはれ白雁が舞うのが見える。そこに、ひっそりと一人暮らす「ラヤダー」という画家。彼は、病気による醜い容姿であるために、人目を避け、動物たちと暮らしている。ある時、美しい少女である「フリーザ」が傷ついた白雁を抱いて、手当ての相談にラヤダーのもとを訪れた。傷ついた白雁を救ったラヤダーの「優しさ」と「勇気」に惹かれ、フリーザは、思いをよせるようになった。毎年、白雁が渡ってくる時季に二人は会うようになり、ラヤダーも、次第にフリーザに対する友情が愛情に変化してくることに気付く。しかし、ラヤダーは自らの醜い容姿を気にして、フリーザに気持ちを打ち明けることができない。フリーザも自分の気持ちに気付かない。戦争が激化し、ラヤダーの身のまわりも敵に包囲され、傷ついた兵士たちがたくさんいた。そこで、ラヤダーは勇敢にも傷ついた兵士たちを救護するため、決死の思いで戦地に赴く。(ダンケルクの戦い)フリーザはそんなラヤダーの姿を見て、彼の万物に対する愛情の深さを知り、そしてラヤダーを愛している自分の気持ちに気付くが、時すでに遅く、あえなくラヤダーは討ち死にしてしまう。

主催：日本聖公会 大森聖アグネス教会 宣教委員会
<http://www.nskk.org/tokyo/church/oomori>

